

## 2019年4月度 J.フロントリテイリング 百貨店事業 売上速報(日本基準)

※当社は2017年度から国際会計基準（IFRS）を任意適用しております。なお百貨店事業の店舗別売上高につきましては、引き続き従来の日本基準で開示します。  
※数値は速報値のため、毎月中旬に発表している確定報とは誤差が生じることがあります。  
※百貨店事業以外の事業も含めた連結ベースによる売上収益報告につきましては、IFRSの確定値により毎月中旬に開示します。

### ■ 店舗別売上高対前年増減率（%）

店舗	4月度	3~4月累計	店舗	4月度	3~4月累計
大丸 心齋橋店	8.8	9.7	松坂屋 名古屋店 ※4	1.5	1.2
大丸 梅田店	1.4	0.4	松坂屋 上野店	3.5	6.6
大丸 東京店	0.5	0.6	松坂屋 静岡店	▲4.8	▲4.9
大丸 京都店	▲2.8	▲2.7	松坂屋 高槻店	▲3.5	▲3.9
大丸 神戸店 ※2	▲0.7	▲3.1	松坂屋 豊田店	▲8.8	▲3.7
大丸 須磨店	▲2.8	▲3.1	<b>大丸松坂屋百貨店合計 ※5</b>	0.9	0.9
大丸 芦屋店 ※3	▲33.5	▲19.8	博多大丸	1.0	1.1
大丸 札幌店	0.0	0.0	下関大丸	▲2.5	▲0.7
			高知大丸	▲2.4	▲4.7
			<b>百貨店事業合計 ※5</b>	0.8	0.8

※注) 1. 大丸山科店は、2019年3月末日をもって営業を終了いたしました。  
2. 大丸神戸店は、2018年3月から周辺店舗のテナントを順次賃貸借契約に変更し、売上を不動産事業に移管しているため、「賃貸契約へ移管したテナントの前年売上実績を除いた実質の前年増減率」で表記しています。  
前年に不動産事業への移管分を含めた大丸神戸店の4月度の売上は、対前年▲2.8%減。3~4月度累計は同▲6.3%減。  
3. 大丸芦屋店は、2019年3月18日から売場面積が縮小しております。  
4. 松坂屋名古屋店は、2019年3月20日から南館2階フロアを賃貸借契約に変更しているため、南館2階の本年・前年実績を控除した実質の増減率を示しております。  
南館2階の本年・前年実績を控除しない松坂屋名古屋店の4月度の売上は、対前年0.4%増。3~4月度累計は同0.0%増。  
5. 合計の増減率は、大丸山科店を除き、2、4の変更を含む実質の増減率です。山科店を含み、2、4の変更を含まない4月度の増減率は、大丸松坂屋百貨店合計対前年▲0.1%減。百貨店事業合計同▲0.1%減。3~4月度累計は、大丸松坂屋百貨店合計同0.1%増、百貨店事業合計同0.1%増。

### ■ 概況

4月度の百貨店事業の売上高は、気温が前年より低く推移したことから、婦人・紳士ファッションの動きが鈍かったものの、化粧品とラグジュアリーブランドが国内・訪日外国人需要ともに売上を伸ばし、食品も好調に推移したことなどから、大丸松坂屋百貨店合計では対前年0.9%増、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では、同0.8%増となった。なお大丸松坂屋百貨店合計、百貨店事業合計ともに3ヶ月連続で前年実績を上回った。また大丸松坂屋百貨店合計の免税売上高(速報値)は対前年約22%増(客数同8%増、客単価同13%増)となった。店舗別では、札幌店が7ヶ月連続、心齋橋店、東京店、名古屋店が3ヶ月連続で対前年プラスとなるなど、直営6店舗と博多大丸が前年実績を上回った。

なお4月27日(土)~5月6日(月)の10連休では、前年の同曜日期間(4/28~5/7)と比較して、入店客数は約1割増、売上高は約7%増となった。

お問い合わせ先 J.フロント リテイリング株式会社 IR推進部・グループ広報推進部  
TEL 03-6895-0178  
FAX 03-6674-7565